

漁況予報 いわし

第167号

2011年9～10月漁期
(2011年9月12日発行)

＝ 概況 ＝

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、7月が252トン、8月が287トン（速報値）で、両月とも前年（7月2トン、8月6トン）および平年（7月102トン、8月49トン）を大きく上回りました。

魚体は、8月には11～14cmの小羽マイワシおよび14～16cmの中羽マイワシが主体でした。これらはともに2011年生まれの0歳魚と推定されます。

佐島地区のまき網は、餌イワシとしてヒラゴサイズの漁獲があったほか、ヒラゴ～中羽マイワシを鮮魚として水揚げしましたが、荒天等の影響により出漁日数が少なく、7、8月とも低調に推移しました。

前号までもお伝えしたとおり、今年は春季のシラス船びき網によるマシラスの漁獲が多く、初夏以降の定置網等によるヒラゴサイズ以上の漁獲も、現在まで順調に経過しています。このことから、本県沿岸におけるマイワシ0歳魚（2011年級）の資源豊度は高いものと推定されます。

一方、前年夏・秋季にまき網で多獲された大羽サイズの群（1歳魚以上）は、今年は湾内にあまり残留していない様子で、常磐・房総沖からマイワシが南下してくる年末までは、0歳魚主体の漁獲が継続するものと考えられます。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、7月が155トン、8月が8トン（速報値）で、両月とも不漁だった前年（7月299トン、8月97トン）および平年（7月439トン、8月234トン）を大きく下回りました。

魚体は、7月には体長9～11cmの小型成魚および12～13cmの大型成魚が主体でした。

佐島地区のまき網は、餌イワシの漁獲が散発的にありましたが、7、8月とも低調に推移しました。一方で東京湾側では、8月中旬頃まで餌イワシの漁獲が継続しました。

今後は例年どおり、今年生まれの未成魚主体の漁獲になっていくと考えられます。

【シラス】

相模湾のシラス船びき網によるシラス漁獲量（標本船データより推定）は、7、8月とも好漁だった前年および平年を下回りました（前年比7月0.6倍、8月0.5倍、平年比7月0.7倍、8月0.7倍）。これは7、8月とも荒天が多かったことが主な原因と考えられます。

漁獲物は、7、8月とも例年どおりカタクチシラス（カタクチイワシ仔魚）が主体でした。

当所が実施した卵稚仔プランクトン調査による、7、8月の相模湾のカタクチイワシ卵の平均分布量は319粒／曳網であり、前年（365粒／曳網）および平年（505粒／曳網）を下回りました。

＝ 予報 ＝

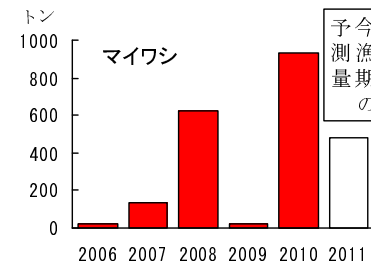
【マイワシ】

今漁期は、2010年生まれの小羽マイワシ～中羽マイワシ（体長14～16cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスの漁獲状況から、定置網を主体に、前年を下回る約480トンと予測されます。

* グラフ縦軸：主要定置網+まき網

過去5年の9・10月漁期の漁獲量
と今漁期の予測量

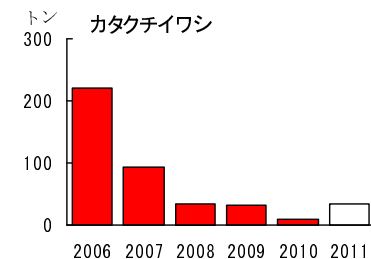


【カタクチイワシ】

今漁期は、体長9cm未満の未成魚が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、7～8月の定置網漁獲量から、定置網を主体に、前年同様低水準の約33トンと予測されます。

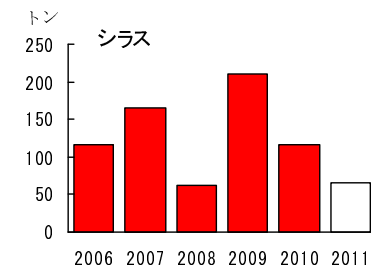
* グラフ縦軸：主要定置網+まき網



【シラス】

今漁期は、8月以降に発生したカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、7、8月の相模湾周辺のカタクチイワシ卵分布状況から、前年を下回る約65トンと予測されますが、海況条件によっては予測値をさらに上回ることも考えられます。



神奈川県水産技術センター資源環境部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313